

# ストップ! 風しん

## ～赤ちゃんを守ろう～

## 予防接種の一部助成を開始

大阪府内の風しんの感染者報告数が3週連続(4月第3週目～5月第1週目)で全国ワースト1を記録し、昨年同時期の30倍(832人)となっています。感染者の7割が男性で20～40歳代に発症者が集中しています。このような深刻な状況を受けて、5月13日、大阪府が「風しん流行緊急事態」を宣言しました。市は緊急風しん予防対策として風しん予防接種費用の一部助成について5月議会で提案し、可決されました。

### 助成対象となる接種期間

**5月13日(月)～9月30日(月)**

※5月13日までさかのぼって対象となります

**対象**

19歳以上の市民で、次の1か2に該当する人  
1 妊娠を希望する女性 2 妊娠している女性の配偶者

**接種場所**

接種医療機関の指定はありません

**助成方式**

償還払い方式(医療機関へ接種費用を支払い、後日保健センターに申請をすると、かかった接種費用の一部を助成します)

**助成金額**

麻しん風しん混合ワクチンを接種した場合**7000円**(上限)  
風しんワクチンを接種した場合**4500円**(上限)

**申請期間****12月27日(金)までに**

など

必要書類を保健センターか保健センター南千里分館へ(郵送可)

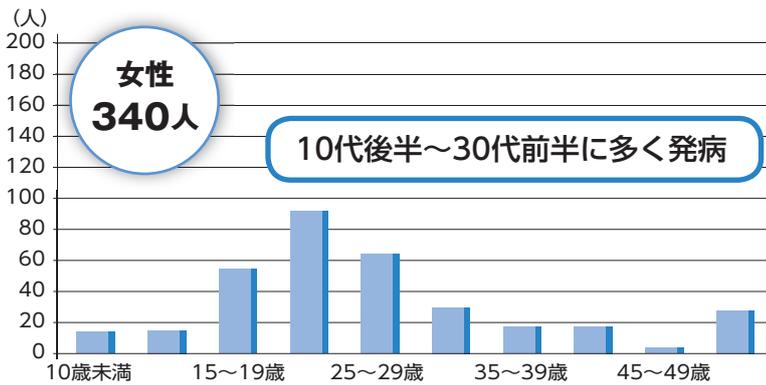
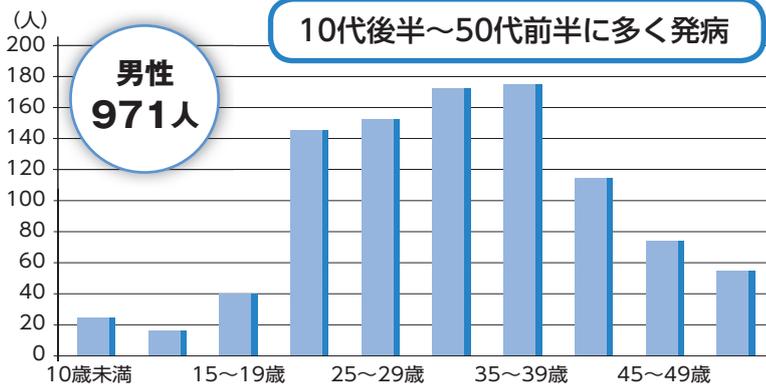
**必要書類**

- 1 申請書(保健センターと保健センター南千里分館で配布。市ホームページからもダウンロード可)
- 2 領収書(被接種者の名前、接種日、接種したワクチンの種類、医療機関名、接種金額が記載されているもの)
- 3 妊娠している女性の配偶者は、母子健康手帳の「保護者名記入のページ」の写し

**▶問い合わせ 保健センター(〒564・0072出口町19・2TEL 6339・1212 FAX 6339・7075)**

# 大阪府内における風しんの状況

平成25年(2013年)1月1日～5月21日時点



出典：大阪府感染症情報センター

# 風しんとは

子どもだけの病気では  
ありません



風しんは、風しんウイルスの飛まつ感染によって発症します。ウイルスに感染してもすぐに症状は出ません。約2～3週間の潜伏期間後、淡い色の赤い発疹、発熱、首の後ろのリンパ節が腫れるなどが主な症状として現れます。子どもの場合

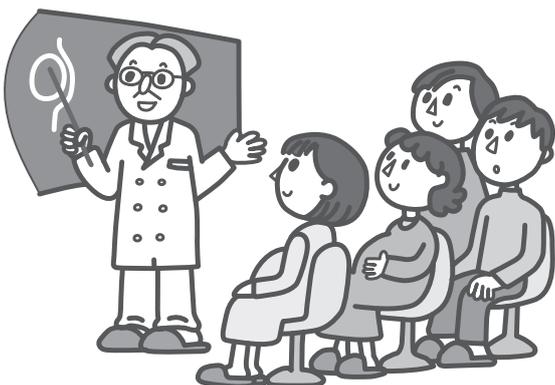
は、3日程度で症状が治まることが多いため「三日ばしか」と呼ばれています。合併症として血小板減少性紫斑病、脳炎などが報告されています。血小板減少性紫斑病は風しん患者約3000人に1人、脳炎は風しん患者約6000人に1人の割合

合で合併します。成人になってから発病すると、ひどい関節痛が特徴として挙げられ、1週間以上休養が必要な場合もあります。現在風しんは、成人に多く、10代後半～50代前半の男性、10代後半～30代前半の女性に多く発病しています。

## 妊婦は特に注意を

## 先天性風しん症候群

妊婦が妊娠初期に風しんウイルスに感染すると、出生児が先天性風しん症候群を発症することがあります。先天性風しん症候群とは、先天性心疾患、難聴、白内障を三大症状とし、その他にも網膜症、肝脾腫、血小板減少、糖尿病、発育遅滞、精神発達遅滞などを発症することがあります。昨年から府内でも2人の赤ちゃんの発症が確認されています。



# 風しん感染を

# 防ぐために

## 新しい命・妊婦を守る

風しんは、飛まつ感染します。感染予防に努めましょう。

● 外出後の手洗い、うがい、咳エチケットなどに気をつけましょう。

● 予防接種を受けましょう。

妊娠している、または妊娠している可能性がある場合は接種できません。



妊婦の配偶者・子ども・同居家族、10代後半から40代女性（妊娠を希望する女性）、出産後の女性は予防接種を受けましょう。接種後、免疫ができるまで4週間ほどかかります。できるだけ早く接種してください。

## 風しんにかかってしまったら

急な全身性の発疹や発熱などの症状が現れたら早めにかかりつけ医などを受診しましょう。感染の拡大を防ぐため、できるだけ外出も控えてください。



### ▼問い合わせ

保健センター（TEL 63339・1212 FAX 63339・7075）

## 風しん Q & A コーナー

**Q** 風しんの予防接種を受ければ感染しないと考えてよいでしょうか。

**A** 風しんワクチンを1回接種した人に免疫ができる割合は95～99%と考えられています。

**Q** 風しんの予防接種にはどのような副反応がありますか。

**A** 麻しん風しん混合ワクチンと風しんワクチンは、まれに重篤な副反応として、アナフィラキシーショック、全身のじんましんがあります。また、100万人に1～3人程度の割合で急性血小板減少性紫斑病を発症することがあります。その他に、発疹、紅斑、かゆみ、発熱、リンパ節の腫れ、関節痛などがあります。

**Q** 成人女性が風しんの予防接種を受ける場合に注意することはありますか。

**A** 妊娠していない時期（生理中かその直後がより確実）に予防接種を受け、その後2カ月間は避妊してください。

**Q** 過去に風しんにかかったか分からないのですが、予防接種を受けても大丈夫でしょうか。

**A** 特別な副反応は起こらず、風しんに対する免疫効果をさらに強化することが期待できます。過去にかかったか不確かな人は予防接種を受けてください。



9月から

# 子ども医療費助成制度が始まります

9月1日から、「乳幼児等医療費助成制度」が「子ども医療費助成制度」に変わります。現在、通院の場合は就学前の子ども、入院の場合は小学6年生までを対象としていますが、いずれも中学3年生まで拡大します。



助成を受けるためには

## 子ども医療証の交付申請が必要

**対象** 0歳～中学3年生

**所得制限** 1人を扶養している場合は所得578万円未満  
(扶養1人につき38万円加算)

**自己負担額** 医療機関ごとに1日につき**500円**。ただし、自己負担額が500円未満の場合はその額が自己負担額となります。同じ医療機関での自己負担は、1カ月あたり2日(最大**1000円**)までとし、3日目以降は不要。1カ月の自己負担額は、複数の医療機関を受診しても1人あたり最大**2500円**です。2500円を超えた場合は、超えている金額を市に請求してください。

**通院** 就学前の子ども

**入院** 小学6年生まで

**通院・入院**  
いずれも  
**中学3年生まで**

**申し込み** 6月中旬に対象者へ申請書を送付します。直接か郵送で申請書を子育て支援室(〒564・8550住所不要)へ。

なお、乳幼児医療証を持っている人は申請は不要です。また、生活保護世帯の人、ひとり親家庭医療証を持っている人、身体または知的障がい者医療証を持っている人はそれぞれの助成制度が優先適用されるため不要です。

**医療証の交付** 8月下旬に送付します

▶**問い合わせ** 子育て支援室(TEL 6384・1470 FAX 6368・7349)

## 子宮頸がん予防ワクチン

### 接種について

▼問い合わせ保健センター(TEL 63339・1212)

FAX 63339・7075)

子宮頸がん予防ワクチンが4月から予防接種法に基づく定期接種になりましたが、現在、副反応への不安の声が寄せられています。

予防ワクチンの有効性や副反応などについてお知らせします。

#### 子宮頸がん

#### ヒトパピローマウイルス

子宮頸がんによる死亡者は平成23年、国内で約2700人と報告されています。子宮頸がんは、発がん性ヒトパピローマウイルス(HPV)というウイルスの持続的な感染が原因となって発症します。感染しても多くの場合、HPVは自然に排出されますが、ごく一部で数年～十数年かけて子宮頸がんを発症することがあります。発がん性HPVは15種類ほどあります。

#### 子宮頸がん予防ワクチンの有効性と副反応

**有効性** 子宮頸がん患者の約7割から見つかっているHPV

16・18型に対する持続感染と、がんに移行する前段階の病変への予防効果が確認されています。16・18型以外の発がん性HPVの予防はできません。

**副反応** 注射部位の疼痛、発赤、腫脹、発熱など。重篤な反応として、アナフィラキシーショック、急性散在性脳脊髄炎(AD E M)、急性血小板減少性紫斑病などが起こることがあります。

副反応への不安の声に対して、厚生労働省の副反応検討部会では定期接種を一時中止すべきと判断するには、現時点では医学的根拠が不十分であると報告されました。

**接種にあたって** 副反応はすべてのワクチン接種において発生する可能性があります。かかりつけ医と相談し、有効性や副反応を理解したうえで接種について判断してください。

20歳を過ぎたら定期的に子宮頸がん検診を受けましょう